

びわこの 考湖学

21

城郭用語に「海城」ということばがあります。天守や本丸、城そのものを海に張り出させるよう建築した城のことを、そのように呼んでいきます。たとえば、愛媛県の今治城や山口県の萩城がそれにあたります。

日本全国にたくさん城郭が存在しますが、湖に突き出したように築かれた城はそう多くはありません。全国に8つです。ひとつは長野県諏訪市にある諏訪高島城です。そして、残りの7つが、すべて琵琶湖のまわりに築かれました。実はこのような城のスタイルを考え出したのは織田信長だといわれています。

感じていたのです。

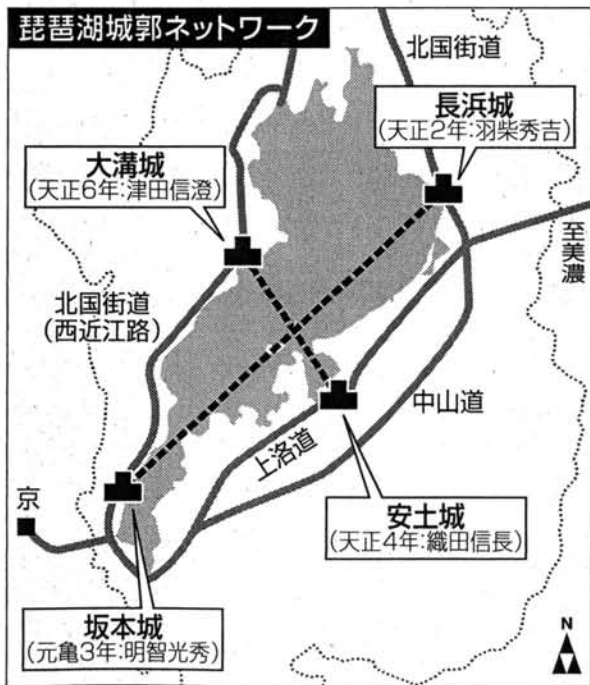
元龜の争乱以降、堅田衆を味方に引き入れると、湖上の「制海権」のすべてを手に入れることに成功しました。これによって信長は、尾張、美濃や京への安全な物や人の移動のルートを手に入れることができたのです。このことが、彼にとっては近江支配における重要な戦略でした。

この結果として、信長は安土城築城後に琵琶湖のまわりに、安土城を含めた4つの地点に戦略拠点を造り始めます。そのひとつが、元龜3(1572)年に明智光秀に築かせた琵琶湖の南端の坂本城です。

信長は、上洛を果たして以後、早い段階から琵琶湖の存在を重視していました。彼は古代以来の琵琶湖が持つ力を

さらに、天正2(1574)年には羽柴秀吉に命じ、琵琶湖の北に長浜城を築かせました。そして、自らは天正

湖城ネットワーク



東西南北に信長の拠点

4年に安土城を築き、天正6年、その対岸に甥の津田信澄に大溝城を築かせます。

この琵琶湖の東西南北に配置された城の配置を「信長琵琶湖城郭ネットワーク」と呼んでいます。その位置関係は

さながら、湖上に浮かぶ「グランドクロス」です。そして、この戦略は信長亡き後に政権を取った豊臣秀吉や徳川家康にも受け継がれていきます。

天正10年、秀吉は焼失した

坂本城の再建を丹羽長秀に命じ、天正15年には浅野長政に大津城の築城を命じます。家康も慶長5(1600)年、戸田一西に命じ、大津城を廃城したのちに膳所城、慶長9年には井伊直孝に命じ彦根城を築かせます。

このように、戦国時代や江戸時代を通じて近江支配における琵琶湖の重要性は度重なる築城からうかがい知ることができます。

残念ながら、これらの城は彦根城を除き、遙かかたに失われてしまいました。今われわれは湖上に浮かぶ城の姿を目の当たりにすることはできませんが、おそらくその雄姿は水面に浮かぶ「湖城」と呼ぶにふさわしい出立ちであったことでしょう。

(滋賀県文化財保護協会 木戸雅寿)